



## 現代日本語接続詞研究文献一覧(中)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-01-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 馬場, 俊臣 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00007306">https://doi.org/10.32150/00007306</a>

# 現代日本語接続詞研究文献一覧 (中)

馬場俊臣

## 概要

本稿は、作成者が2008年4月現在までに知り得た現代日本語の接続詞に関する研究文献(1945年以降)を示したものであり、馬場俊臣(2007)「現代日本語接続詞研究文献一覧(上)」(『札幌国語研究』12)の続編である。紙幅の都合により、本稿では1990年から1999年までに発表された研究文献を示す。2000年以降の文献については続編で示す予定である。

凡例は前稿と同じである。前稿を参照されたい。

なお、作成者の調査不足による採録漏れや記載内容の誤記・不備等があればご寛恕願いたい。採録漏れ・誤記等の情報を作成者までお知らせいただければ幸いである。

- 佐久間まゆみ(1990)「ケース1 接続表現(1)」寺村秀夫・佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編『ケーススタディ日本語の文章と談話』(桜楓社)12-23・176頁。
- 佐久間まゆみ(1990)「文段認定の一基準(Ⅱ)―接続表現の統括―」『文藝言語研究 言語篇』17(筑波大学)35-66頁。
- 佐久間まゆみ・藤村知子(1990)「ケース2 接続表現(2)」寺村秀夫・佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編『ケーススタディ日本語の文章と談話』(桜楓社)24-33・177頁。
- 佐藤恭子(1990)「接続表現の日英比較」『ことばの饗宴―寛壽雄教授還暦記念論集―』(くろしお出版)551-562頁。対照研究、接続詞
- 多門靖容(1990)「接続詞と談話展開についての一視点」『愛知学院大学人間文化研究所紀要 人間文化』5 247-261頁。「しかし」
- 寺村秀夫・佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編(1990)『ケーススタディ日本語の文章・談話』(桜楓社)。佐久間1990、佐久間・藤村1990
- 永野賢(1990)『若い教師のための文章論入門』(明治図書)。国語教育・言語発達、文の連接(接続詞)
- 林田弘美(1990)「談話接続の日英語対照研究―「しかし」とBut―」『埼玉女子短期大学研究紀要』1 31-49頁。対照研究
- 藤田保幸(1990)「接続語・接続成分」『日本語学』9-10 57-61頁。
- 山森良枝(1990)「接続詞の二類型と談話の情報構造―「つまり」と「だから」を手がかりに―」『日本語学』9-5 84-101頁。

- 渡部学 (1990) 「2文の因果関係と接続」『大阪大学日本学報』9 51-67頁.
- 伊藤勲 (1991) 「「ところ」の用法」『国際学友会日本語学校紀要』15 61-73頁. 「ところが」
- 伊藤俊一・阿部純一 (1991) 「接続詞の機能と必要性」『心理学研究』62-5 (日本心理学会) 316-323頁.
- 江田すみれ (1991) 「複合辞による条件の表現 I 「となると」の意味と機能」『日本語教育』75 153-163頁. 接続詞用法の例文含む
- 加藤薫 (1991) 「「逆接」の接続詞についての一考察—「しかし」系の接続詞を中心として—」『国語学 研究と資料』15 (早稲田大学) 33-45頁.
- 小松光三 (1991) 「感動詞 (感受受容詞) と接続詞 (承受関係詞)」『愛媛大学法文学部論集 文学科編』24 17-44頁. 小松1996
- 小松光三 (1991) 「国語の品詞分類」『愛媛大学人文学会創立十五周年記念論集』(愛媛大学人文学会) 97-113頁. 承受関係詞 (接続詞)
- 佐治圭三 (1991) 『日本語の文法の研究』(ひつじ書房).
- 塩澤和子 (1991) 「明治期国定教科書の口語文—一言文—一致体の成立に果たした役割—」森岡健二編著『近代語の成立—文体編—』(明治書院) 160-199頁. 第1期・第2期国定読本・『口語法』『口語法別記』の接続詞、塩澤1978再録
- 孫玉潔 (1991) 「接続詞「しかし」の意味と用法」『愛文』26 (愛媛大学) 27-38頁.
- 高橋太郎 (1991) 「動詞 (その九)」『教育国語』100 (教育科学研究会・国語部会/むぎ書房) 52-76頁. 「見れば」「思えば」「こうして」「そうして」「こうなると」「そうなると」等、高橋2003
- 中田敏夫 (1991) 「児童作文資料接続詞にみる男女差」『金沢大学教育学部紀要 人文科学・社会科学編』40 1-12頁. 国語教育・言語発達
- 永野賢・大熊徹編著 (1991) 『文章論で国語の授業を変えよう』(明治図書). 国語教育・言語発達、文の連接 (接続詞)
- 中村明 (1991) 『文章をみがく』(日本放送出版協会). 145-146頁・接続詞の省略効果
- 中村明 (1991) 『日本語レトリックの体系—文体のなかにある表現技法のひろがり—』(岩波書店). 85-86頁・レトリック研究の対象の一観点としての「連接」(接続詞と文体・作品との関連)
- 中村邦夫 (1991) 『「細雪」における文章表現の特色—接続詞「ソウイエバ」使用の表現形態から—』『国語論究 3 文章研究の新視点』(明治書院) 176-199頁.
- 中村邦夫 (1991) 「谷崎潤一郎の小説における接続詞「ソウイエバ」について—「細雪」と他の作品との比較を中心に—」『宮古短期大学研究紀要』1-2 1-15頁.
- 中村邦夫 (1991) 「論説文における文頭の語の品詞別調査について—岩手日報の「論説」を対象として—」『宮古短期大学研究紀要』2-1 1-29頁. 文頭語接続詞一覧表
- 蓮沼昭子 (1991) 「対話における「だから」の機能」『姫路獨協大学外国語学部紀要』4 137-153頁.

- 浜田麻里 (1991) 「「デハ」の機能—推論と接続語—」『阪大日本語研究』3 25-44頁.
- 平川八尋 (1991) 「理工系講義に現れる接続表現の分析—教材作成のための基礎資料分析—」『長岡技術科学大学 言語・人文科学論集』5 93-102頁. 日本語教育、日本語教育
- 前田直子 (1991) 「条件文分類の一考察」『日本語学科年報』13 (東京外国語大学) 55-80頁. 接続詞の用法として「できれば、そういえば、すると、そうすると、だったら、それなら」等を列挙
- 赤羽根義章 (1992) 「接続詞「でも」「それでも」「ところが」「それどころか」をめぐる」『詞林』12 (大阪大学) 74-54頁.
- 江田すみれ (1992) 「複合辞による条件の表現Ⅱ—「と」「すると」「となると」の意味と機能について—」『日本語教育』78 202-212頁. 接続詞用法の例文含む
- 加納千恵子 (1992) 「読解指導の方法と過程—接続詞による予測・推測を利用した指導例—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』7 19-44頁. 日本語教育
- 川口容子 (1992) 「接続表現の機能に関する一考察—ディスコースマーカー「but」、「でも」の標すもの—」『日本女子大学紀要 文学部』41 159-168頁. 対照研究
- 熊取谷哲夫 (1992) 「電話会話の開始と終結における「はい」と「もしもし」と「じゃ」の談話分析」『日本語学』11-10 14-25頁.
- 佐久間まゆみ (1992) 「接続表現の省略と用法」『国文』77 (お茶の水女子大学) 63-74頁.
- 佐久間まゆみ (1992) 「接続表現の文脈展開機能」『日本女子大学紀要 文学部』41 9-22頁.
- 佐藤政光 (1992) 「日本語学習者の作文における連文レベルの誤用について」『明治大学教養論集 日本文学』251 173-187頁. 日本語教育
- 田窪行則 (1992) 「談話管理の標識について」『文化言語学 その提言と建設』(三省堂) 1110-1097頁. 「だから」「それで」「すると」「それなら」「じゃ」
- 多門靖容 (1992) 「文章の談話分析—「しかし」前後件の後続展開調査—」『日本語学』11-4 56-62頁.
- 趙慧欣 (1992) 「接続表現について—文章中で接続機能と修飾機能を果す、いわゆる副詞等を中心に—」『表現研究』55 41-46頁.
- 寺村秀夫 (1992) 「「あるいは」「または」「もしくは」「ないし(は)」」『寺村秀夫論文集Ⅰ—日本語文法編—』(くろしお出版) 349-359頁. 376頁「解説」(野田尚史)、寺村1970
- 寺村秀夫 (1992) 「並列的接続とその影の統括命題—モ、シ、シカモの場合—」『寺村秀夫論文集Ⅰ—日本語文法編—』(くろしお出版) 337-347頁. 375頁「解説」(野田尚史)、寺村1984
- 土肥治美 (1992) 「公的な談話と論理的文章に表れた接続語句」『名古屋大学日本語学科日本語教育論集』3 35-49頁. 日本語教育、誤用例、文字資料・音声資料

## での接続詞の使用頻度

- 西田直敏 (1992) 『文章・文体・表現の研究』(和泉書院).
- 野田尚史 (1992) 「(解説)「あるいは」「または」「もしくは」「ないし(は)」」『寺村秀夫論文集Ⅰ—日本語文法編一』(くろしお出版) 376頁.
- 野田尚史 (1992) 「(解説)並列的接続とその影の統括命題—モ、シ、シカモの場合一」『寺村秀夫論文集Ⅰ—日本語文法編一』(くろしお出版) 375頁.
- 黄淑燕 (1992) 「「それで」の基調となる意味・概念についての一考察—漱石の作品を資料に一」『日中言語文化比較研究』(日中言語文化比較研究会) 71-101頁.
- 藤原浩史 (1992) 「国定読本の語彙の性格」『日本語学』11-2 39-48頁. 国定読本の接続詞、「そうして」「そして」等
- 赤羽根義章 (1993) 「注釈の接続詞に関する一考察—「可展性」をめぐる一」『多々良鎮男先生傘寿記念論文集』(多々良鎮男先生傘寿記念論文集刊行会) 172-152頁.
- 有賀千佳子 (1993) 「対話における接続詞の機能について—「それで」の用法を手がかりに一」『日本語教育』79 89-101頁.
- 金久保紀子 (1993) 「大学の講義における接続の表現」『日本語と日本文学』18 (筑波大学) 1-11頁. 日本語教育
- 金久保紀子・金仁和・本田明子・松崎寛 (1993) 「講義の日本語における理科系・文科系の特徴」『日本語教育』80 74-90頁. 日本語教育、講義に使われる接続詞
- 小森早江子 (1993) 「日本語の接続語句の分類とその問題点」『中部大学国際関係学部紀要』10 115-127頁.
- 齊藤真理子 (1993) 「The Oral Proficiency Interviewに表れた談話の分析—中級と上級の談話の型の違いについて—」『文化女子大学紀要 人文・社会科学研究』1 31-41頁. 日本語教育
- 佐久間まゆみ・鈴木香子 (1993) 「女子学生の日常談話の接続表現」『国文目白』32 (日本女子大学) 31-48頁.
- 根本総子 (1993) 「会話の構造から見た談話標識の機能—ソレデに関する一考察—」『STUDIUM』21 (大阪外国語大学) 15-34頁.
- 根本総子 (1993) 「会話構成単位と談話標識との関わり—「じゃ」を手がかりに一」『日本語・日本文化研究』3 (大阪外国語大学) 105-120頁.
- 高本條治 (1993) 「叙述内容が担う消極的な連文機能(二)—先行叙述内容に対する定位志向性—」『学苑』638 (昭和女子大学) 121-132頁.
- 長田久男 (1993) 「接続副詞に着目した自覚的な分析読み」『岐阜女子大学紀要』22 136-127頁. 国語教育・言語発達、長田1998
- 中村元千 (1993) 「教材研究・キーワード探しのたのしみ (I)—逆接の接続語—」『月刊国語教育研究』260 (日本国語教育学会) 50-53頁. 国語教育・言語発達
- 西野容子 (1993) 「会話分析について—ディスコースマーカーを中心として—」『日本語学』12-5 89-96頁. 対照研究、「でも」「で」
- 野村眞木夫 (1993) 「日常的な会話における話題の転換と割り込みの機能—会話の

- 参加者のかかわりかたをめぐって—『弘学大語文』18・19 9-22頁。「だから」「でも」
- 馬場俊臣 (1993) 「指示語系接続詞と指示語—「そうして、こうして」を例として—」『語学文学』31 (北海道教育大学) 7-14頁. 馬場2006
- 浜田麻里 (1993) 「ソレガについて」『日本語国際センター紀要』3 57-69頁.
- 藤田保幸 (1993) 「接続詞「すると」「そうすると」「とすると」「と」をめぐって」『詞林』13 (大阪大学) 63-82頁.
- 泉子・K・メイナード (1993) 『会話分析』(くろしお出版). 対照研究、「だって」
- 森田良行 (1993) 「現代日本語論への新しい視点 接続」『国文学 解釈と教材の研究』38-12 68-73頁.
- 森田良行 (1993) 『言語活動と文章論』(明治書院). 森田1958・1967・1968・1969・1985・1987・1989、接続詞の二重使用
- 青木惣一・青柳久雄・大竹弘子・佐藤つかさ・谷すみゑ (1994) 「よく使われる接続詞の教材作成と実施の報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』17 1-29頁. 日本語教育
- 天野みどり (1994) 「「また」の語彙の意味と言語理解に果たす機能—会話資料による考察—」『森野宗明教授退官記念論集 言語・文学・国語教育』(三省堂)299-312頁.
- 伊藤晃 (1994) 「Even so/それでも、そうだとしても、それにしても」『さわらび』3 (神戸市外国語大学) 1-8頁. 対照研究
- 梅林博人 (1994) 「会話の「ところで」と文章の「ところで」」『都大論究』31 13-22頁.
- 大熊徹 (1994) 『文章論的作文指導—論理的思考力・認識力の育成』(明治図書). 国語教育・言語発達、270-286頁「連接論」を応用した作文指導
- 岡本宜子 (1994) 「「それに」の「累加」の特性について」『日本語・日本文化研究』2 (京都外国語大学) 45-52頁.
- 加藤陽子 (1994) 「接続助詞と接続詞に関する一考察」『Working papers』5 (国際大学大学院国際関係学研究所言語学プログラム) 15-26頁.
- 川村よし子 (1994) 「場面に応じたことばの使い分け—逆接の接続詞を中心に—」『東京国際大学論叢 商学部編』50 55-66頁. (日本語教育)
- 北條淳子 (1994) 「接続の語について—逆接の語を中心に—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 文学・芸術学編』40 61-77頁. (日本語教育)
- 金秀芝 (1994) 「日・韓両言語における「話題の転換marker」の対照研究—接続表現を中心に—」『大阪大学日本学報』13 95-106頁. 対照研究
- 黒岩浩美 (1994) 「文章の結束性について—連接関係の分析からみた学習者の問題点—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』9 73-87頁. 日本語教育
- 甲田直美 (1994) 「選択の接続詞「あるいは」「それとも」「または」「もしくは」「ないしは」」荻野綱男編『日本語の文法の構造2』(筑波大学) 37-45頁. 甲田2001

- 甲田直美 (1994) 「情報把握からみた日本語の接続詞」『日本語学』13-10 97-107頁。  
甲田2001
- 根本総子 (1994) 「談話標識の機能について—ソレデ・デを中心として—」『日本語・日本文化研究』2 (京都外国語大学) 33-44頁。
- 高橋太郎 (1994) 「会話の展開のなかでの接続詞」『立正大学文学部論叢』99 1-19頁。
- 高本條治 (1994) 「叙述内容が担う消極的な連文機能 (三) —文連接論との関わり—」『学苑』649 (昭和女子大学) 105-113頁。
- 谷崎和代 (1994) 「談話標識についての—考察—「だから」を中心に—」『大阪大学言語文化学』3 79-93頁。
- 栃木由香 (1994) 「日本語の話しことばにおける接続と指示の表現—日本語中級学習者の発話分析にむけて—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』9 103-118頁。日本語教育、接続詞
- 中島鉄郎 (1994) 「あなたも乱発している利己的な接続詞「だから」の研究 (あなたも「だから」を使いすぎている)」『週刊朝日』4.29 (朝日新聞社) 36-39頁。1994年4月29日号
- 馬場俊臣 (1994) 「接続表現の省略について」『国語国文学科研究論文集』39 (北海道教育大学札幌校) 13-15頁。
- 林田弘美 (1994) 「談話接続の日英語対照研究—接続詞モットモの英訳のありかた—」『埼玉女子短期大学研究紀要』5 259-278頁。対照研究
- 飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典』(東京堂出版)。副詞類 (結局、実は、では、つまりなど多数)
- 牧典子 (1994) 「日本語で論文を書く留学生のための接続詞・接続の語」『国語国文学研究』30 (熊本大学) 180-152頁。日本語教育
- 村上治美 (1994) 「「道案内文」にあらわれる表現の諸相—接続表現を中心として—」『東海大学紀要 留学生教育センター』14 21-30頁。日本語教育
- メイナード・K・泉子 (1994) 「「という」表現の機能—話者の発想・発話態度の標識として—」『言語』23-11 80-85頁。「ていうか」
- 山岡萬謙・趙慧欣 (1994) 「接続表現における意味と用法の研究—「かえって」について—」『岡山理科大学紀要 (人文・社会科学)』29-B 1-13頁。
- 赤羽根義章 (1995) 「注釈の接続詞に関する—考察—対話における機能について—」『愛知教育大学研究報告 人文・社会科学篇』44 197-210頁。
- 安部逸雄 (1995) 「学校文法における“接続”について—古典文法書 (準教科書) を中心として—」『語学と文学』25 (九州女子大学) 1-19頁。国語教育・言語発達
- 岡本宜子 (1995) 「「それに」の構文的・連文の特徴と文脈展開能力について」『日本語・日本文化研究』3 (京都外国語大学) 64-73頁。
- 沖裕子 (1995) 「接続詞「しかし」の意味・用法」『日本語研究』15 (東京都立大学)

21-30頁. 沖2006

- 加藤薫 (1995) 「“原因・理由”を受けない「だから」—「だから」の主體的側面の突出—」『早稲田日本語研究』3 (早稲田大学) 14-31頁.
- 川越菜穂子 (1995) 「ところで、話は変わるけど—Topic shift markerについて—」仁田義雄編『複文の研究 (下)』(くろしお出版) 463-479頁.
- 川越菜穂子 (1995) 「トコロデと話ハ変ワリマスガ—話題を転換する形式—」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法 (下)』(くろしお出版) 608-615頁.
- 川端芳子 (1995) 「「ところで」について」『立教大学 日本語研究』2 9-16頁.
- 北村よう (1995) 「中国語話者の作文における文接続の問題点」『東海大学紀要 留学生教育センター』15 1-11頁. 日本語教育
- 甲田直美 (1995) 「日本語接続詞の体系整理 接続詞後続文の展開可能性から」『言語科学論集』1 (京都大学) 31-45頁. 甲田2001
- 甲田直美 (1995) 「転換を表す接続詞「さて」「ところで」「では」をめぐって」『日本語と日本文学』21 (筑波大学) 31-42頁. 甲田2001
- 三枝令子 (1995) 「「だって」「たって」の本義とその用法の広がり」『日本語の研究と教育 窪田富男教授退官記念論文集』(専門教育出版) 60-76頁.
- 鮫島重喜 (1995) 「初・中級学習者の接続詞運用に関する一考察—中国人学習者の作文例から—」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』2 166-184頁. 日本語教育
- 清水泰生 (1995) 「接続詞「さて」について」『大阪外国語大学 視聴覚教材と言語教育』8 75-88頁.
- 坪本篤朗 (1995) 「文連結と認知図式—いわゆる主要部内在型関係節とその解釈—」『日本語学』14-3 79-91頁. 「それを」「それが」
- 徳田裕美子 (1995) 「接続助詞及び接続詞の誤用について」『日本語の研究と教育 窪田富男教授退官記念論文集』(専門教育出版) 409-422頁. 日本語教育
- 栃木由香 (1995) 「日本語中級学習者の話しことばのテキストの型—接続表現の使用を中心に—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』10 79-93頁. 日本語教育、接続詞、接続助詞等
- 長田久男 (1995) 『国語文章論』(和泉書院). 連文の成立 (接続副詞、並列副詞、素材表示部無形化表現)、文の連接
- 西由美子 (1995) 「新聞社説における接続表現の出現傾向」『国文目白』34 (日本女子大学) 85-93頁.
- 仁田義雄編 (1995) 『複文の研究 (下)』(くろしお出版).
- 蓮沼昭子 (1995) 「談話接続語「だって」について」『姫路獨協大学外国語学部紀要』8 265-281頁.
- 浜田麻里 (1995) 「いわゆる添加の接続語について」仁田義雄編『複文の研究 (下)』(くろしお出版) 439-461頁.
- 浜田麻里 (1995) 「さて、デハ、シカシ、トコロデー—転換の接続詞—」宮島達夫・



- 仁田義雄編『日本語類義表現の文法（下）』（くろしお出版）600-607頁。
- 浜田麻里（1995）「ソシテとソレデとソレカラー添加の接続詞―」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（下）』（くろしお出版）575-583頁。
- 浜田麻里（1995）「トコロガとシカシ 逆接続語と談話の類型」『日本語教育論集 世界の日本語教育』5（国際交流基金日本語国際センター）193-207頁。
- 浜田麻里（1995）「トコロガとシカシ・デモなど―逆接続語の談話における機能―」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（下）』（くろしお出版）584-592頁。
- 増田正子（1995）「芥川龍之介「舞踏会」の表現特性―接続語「が、」をめぐって―」『国語表現研究』8（大阪教育大学）1-10頁。
- 宮定かをり（1995）「対談の構造分析の試み―発話間の接続―」『国語年誌』13（神戸大学）82-105頁。
- 宮島達夫・仁田義雄編（1995）『日本語類義表現の文法（下）』（くろしお出版）。
- 村中淑子（1995）「接続詞「だから」の音調について」『日本語研究センター報告』3（大阪樟蔭女子大学）1-12頁。
- 森田良行（1995）『日本語の視点』（創拓社）。逆接の論理、順接の論理、「しかし」「だから」
- 山梨正明（1995）『認知文法論』（ひつじ書房）。文法化と接続詞（69-72頁）
- 楊凱榮（1995）「「かわりに」、「そのかわり」について」仁田義雄編『複文の研究（下）』（くろしお出版）421-438頁。
- 渡部学（1995）「ケレドモ類とシカシ類―逆接の接続助詞と接続詞―」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（下）』（くろしお出版）593-599頁。
- 赤羽根義章（1996）「逆接の接続詞の意味用法―前件と後件のムードとの関わりから―」長尾高明先生華甲記念論集刊行会編『新しい国語教育の基層 長尾高明先生華甲記念論集』（長尾高明先生華甲記念論集刊行会）41-56頁。
- 赤羽根義章（1996）「選択の接続詞に関する一考察―「可展性」をめぐって」『愛知教育大学研究報告 人文・社会科学篇』45 135-142頁。
- 庵功雄（1996）「「それが」とテキストの構造―接続詞と指示詞の関係に関する一考察―」『阪大日本語研究』8 29-44頁。
- 庵功雄（1996）「指示と代用―文脈指示における指示表現の機能の違い―」『現代日本語研究』3（大阪大学）73-91頁。
- 岡本宜子（1996）「「また」の構文的特徴と機能についての覚え書き」『日本語・日本文化研究』4（京都外国語大学）37-45頁。
- 沖裕子（1996）「対話型接続詞における省略の機構と逆接―「だって」と「なぜなら」「でも」―」中條修編『論集 言葉と教育』（和泉書院）97-111頁。沖2006
- 小野寺典子（1996）「動詞から接続表現へ―日本語におけるgrammaticalizationとsubjectificationの一事例」言語学林1995-1996編集委員会編『言語学林1995-1996』（三省堂）457-474頁。
- 甲田直美（1996）「接続詞とメタ言語」『日本語学』15-11 28-34頁。甲田2001

- 甲田直美 (1996) 「選択を表す接続詞について」『日本語教育』89 88-99頁. 甲田2001
- 小松敬次郎 (1996) 「『言語事項』の学習指導実践への視点—接続詞の性質と機能の  
とらえ方を中心に—」『年報いわみざわ (初等教育・教師教育研究)』17 (北海道  
教育大学岩見沢校) 57-68頁. 国語教育・言語発達、小学校国語教科書の接続詞、  
教材分析・指導内容
- 小松光三 (1996) 『日本表現文法論』(新典社). 小松1991、「承受関係詞」(接続詞)
- 佐久間まゆみ (1996) 「文の文法と文連続の文法—文章の文法への志向—」『日本語  
学』15-9 32-40頁. 「接続—文連続論」
- 新村知子 (1996) 「独話における接続詞・接続助詞表現の特徴—日本人大学生と外  
国人留学生の比較において—」『金沢学院大学文学部紀要』1 56-63頁. 日本語  
教育
- 杉本和之 (1996) 「「そういえば」の意味と機能」『愛媛国文と教育』29 (愛媛大学)  
1-10頁.
- 曹永湖 (1996) 「談話における「でも」の機能について」『文化』59-3・4 (東北大学)  
19-32頁.
- 曹永湖 (1996) 「談話マーカー「だから」のAnti-face-threatening機能について」『東  
北大学言語学論集』5 79-90頁.
- 辻大介 (1996) 「若者におけるコミュニケーション様式変化—若者語のポストモダ  
ニティー—」『東京大学社会情報研究所紀要』51 42-61頁. 「っていうか」使用と  
若者の対人関係意識
- 林田弘美 (1996) 「日米新聞社説文の文章展開—日本語接続詞ソレニシテモの用法  
を中心に—」『埼玉女子短期大学研究紀要』7 203-222頁. 対照研究
- ひけひろし (1996) 「接続詞のはなし (1) —そして—」『教育国語 第2期』20 (教  
育科学研究会国語部会) 13-19頁.
- ひけひろし (1996) 「接続詞のはなし (2) —「それから」と「そして」—」『教育  
国語 第2期』22 (教育科学研究会国語部会) 15-26頁.
- ひけひろし (1996) 「接続詞のはなし (3) —「すると」—」『教育国語 第2期』  
23 (教育科学研究会国語部会) 20-29頁.
- 堀井謙一 (1996) 「言葉の教育と言葉の指し示すものの教育」『信大国語教育』6  
1-4頁. 国語教育・言語発達
- 村岡貴子 (1996) 「農学系日本語学術論文における接続表現について—農学系日本  
語教育のために—」『言語探究の領域 小泉保博士古稀記念論文集』(大学書林)  
447-456頁. 日本語教育、接続詞
- 森田良行 (1996) 『意味分析の方法—理論と実践—』(ひつじ書房).
- 渡邊亜子 (1996) 『中・上級日本語学習者の談話展開』(くろしお出版). 日本語教育、  
文の連接、接続詞
- 赤羽根義章 (1997) 「芥川作品の逆接系接続詞」『石井文夫教授退官記念論文集』(石  
井文夫教授退官記念論文集刊行会) 144-163頁.

- 沖裕子 (1997) 「新用法からみた対話型接続詞「だって」の性格」『人文科学論集〈文化コミュニケーション学科編〉』31 (信州大学) 119-127頁. 沖2006
- 三枝令子 (1997) 「「って」の体系」『言語文化』34 (一橋大学) 21-38頁. 「だって」
- 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編 (1997) 『文章・談話のしくみ』(おうふう).
- 塩澤和子 (1997) 「順接型接続詞の意味と用法 (1) —ダカラ・ソノ結果・従ッテ・スルト・ソコデ・ソレデ」『文藝言語研究 言語篇』31 (筑波大学) 23-55頁.
- 田中馨 (1997) 「対話における順接接続詞の機能—「だから」「それで」「で」を中心に—」『国語国文学科研究論文集』42 (北海道教育大学) 72-73頁.
- 曹永湖 (1997) 「談話マーカー「だって」の意味と機能」『東北大学言語学論集』6 105-118頁.
- 寺井妃呂美 (1997) 「談話における条件接続表現の機能」『岡山大学言語学論叢』5 117-138頁.
- 長田久男 (1997) 『日本語構文論』(岐阜タイプライター). 並列副詞、接続副詞
- 仁田義雄 (1997) 『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して—』(くろしお出版). 14-16頁・文の連文構成機能・接続詞、「では」「で」「でも」
- 野村眞木夫 (1997) 「第6節 きりかえる」佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編『文章・談話のしくみ』(おうふう) 97-109頁.
- 野村眞木夫 (1997) 「むすびつける (第2章第5節)」佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編『文章・談話のしくみ』(おうふう) 84-96頁.
- 蓮沼昭子 (1997) 「「だって」と「でも」—取り立てと接続の相関—」『姫路獨協大学外国語学部紀要』10 197-217頁.
- 馬場俊臣 (1997) 「条件表現形式による継起・対比・反期待用法—「(か) と思うと、思ったら、思えば」について—」『北海道教育大学紀要 第1部A』47-2 17-27頁.
- 浜田麻里 (1997) 「話し言葉におけるダカラの分析試論」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』1 103-112頁.
- ハリディ M. A. K. ルカイヤ・ハサン 著 安藤貞雄他訳 (1997) 『テキストはどのように構成されるか』("Cohesion in English") (ひつじ書房). Longman, 1976
- 坂東正子 (1997) 「日本語学習者の文章における文脈展開」『日本語・日本文化研究』7 (大阪外国語大学) 213-224頁. 日本語教育
- ひけひろし (1997) 「接続詞のはなし (4) —「それで」と「そこで」—」『教育国語 第2期』24 (教育科学研究会国語部会) 23-30頁.
- ひけひろし (1997) 「接続詞のはなし (5) —「だから」—」『教育国語 第2期』26 (教育科学研究会国語部会) 20-26頁.
- 福島佐知 (1997) 「話しことばにおける「添加」の接続表現について—「そして」「それで」「それから」—」『東京外国語大学日本研究教育年報』1 49-70頁.
- 松木正恵 (1997) 「「と思うと」の連続性」『学術研究 国語・国文学編』45 (早稲田大学) 27-39頁.

- 三井昭子 (1997) 「第7章 話しことばの「だから」「それで」」現代日本語研究会編『女性のことば・職場編』(ひつじ書房) 155-173頁.
- 村岡貴子・影廣陽子・柳智博 (1997) 「農学系8 学術雑誌における日本語論文の語彙調査—農学系日本語論文の読解および執筆のための日本語語彙指導を目指して—」『日本語教育』95 61-72頁. 日本語教育、接続詞の使用頻度調査結果
- 赤羽根義章 (1998) 「接続助詞と接続語—「ソウスルナラ、ソレナラ、ダッタナラ、ナラ」」『宇都宮大学教育学部紀要(第1部)』48 1-12頁.
- 石黒圭 (1998) 「理由の予測—予測の読みの一側面—」『日本語教育』96 49-60頁.
- 石黒圭 (1998) 「逆接の予測—予測の読みの一側面—」『早稲田日本語研究』6 52-41頁.
- 石黒圭 (1998) 「文間を読む—連文論への一試論—」『表現研究』67 11-18頁.
- 市川保子 (1998) 「接続詞と外国人日本語学習者の誤用」『九州大学留学生センター紀要』9 1-18頁. 日本語教育
- 上野力 (1998) 「接続関係の把握 新聞社説とコラム記事の比較—jgawkスクリプトによる分析—」『常葉国文』23 1-11頁.
- 江田すみれ (1998) 「条件を表す複合辞「とすると」「とすれば」「としたら」の共通性と相違点について」『日本語教育』99 24-35頁. 接続詞用法の例文含む
- 岡部寛 (1998) 「ダカラとソレデの違いについて」『現代日本語研究』5 (大阪大学) 53-64頁.
- 岡本真一郎・多門靖容 (1998) 「談話におけるダカラの諸用法」『日本語教育』98 49-60頁.
- 沖裕子 (1998) 「チャレンジコーナー [8月号出題]」『言語』27-10 122-127頁. 「しかし」、沖2006
- 沖裕子 (1998) 「チャレンジコーナー [10月号出題]」『言語』27-12 156-161頁. 「だって」「ところで」
- 沖裕子 (1998) 「チャレンジコーナー [9月号出題]」『言語』27-11 130-135頁. 「だって」「なぜなら」「でも」
- 沖裕子 (1998) 「接続詞「あるいは」と「または」の意味について—談話展開機能の獲得にふれて」『人文科学論集〈文化コミュニケーション学科編〉』32 (信州大学) 57-70頁. 沖2006
- 沖裕子 (1998) 「接続詞と接続助詞の「ところで」—「転換」と「逆接」の関係性—」『日本語教育』98 37-48頁. 沖2006
- 沖裕子 (1998) 「チャレンジコーナー [7月号出題]」『言語』27-9 122-127頁. 逆接の性格、沖2006
- グループ・ジャマシィ編 (1998) 『教師と学習者のための 日本語文型辞典』(くろしお出版). 日本語教育
- 甲田直美 (1998) 「語り」と再現性—芥川作品から—」『滋賀大國文』36 26-35頁. 甲田2001

- 甲田直美 (1998) 「接続詞と物語叙法」『表現研究』67 19-26頁. 甲田2001
- 近藤純子 (1998) 「複合辞としての「ということ」」『日本語教育』99 12-23頁.
- 三枝令子 (1998) 「文脈指示の「コ」と「ソ」の使い分け」『一橋大学留学生センター紀要』1 53-66頁. ソ系指示詞を含む接続詞、「それが<sup>s</sup>」等
- 田中寛 (1998) 「接続表現をめぐる日タイ語対照研究」『講座日本語教育 第33分冊』(早稲田大学) 115-143頁. 対照研究
- 坪本篤朗 (1998) 「第Ⅱ部 文連結の形と意味と語用論」中右実編『日英語比較選書3 モダリティと発話行為』(研究社出版)99-193頁. 文連結の整合性・結束性・方向性・視点、「と」、「それを」
- 長田久男 (1998) 『文章を読む行為の研究』(溪水社). 国語教育・言語発達、125-142頁・接続副詞の働きと分析読みの方法 (長田1993)、143-154頁・並列副詞の働きと分析読みの方法 (長田1993)
- 中溝朋子 (1998) 「「逆接」の接続表現の「対比用法」と「展開用法」について—会話における「けど」を例に」『東京外国語大学日本研究教育年報』2 33-55頁.
- 西由美子 (1998) 「日英語の新聞社説における接続表現一文の接続をめぐる」『言語文化と日本語教育』15 (お茶の水女子大学) 24-36頁. 対照研究
- 林四郎 (1998) 『文章論の基礎問題』(三省堂). 「文脈接続語」(接続詞)
- 平澤啓 (1998) 「伊藤博文の演説の副用言—近・現代語と比較して—」『きのくに国文—教育と研究—』4 (和歌山大学) 58-43頁. 演説速記の接続詞
- 黄淑燕 (1998) 「《累加》から《展開》へ—いわゆる接続詞分類の一試案—」『現代日本語研究』5 (大阪大学) 139-150頁.
- 本多真紀子 (1998) 「接続詞スルトについて—命題レベル／判断・発話レベルの観点から—」『待兼山論叢 日本学篇』32 (大阪大学) 17-32頁.
- 松木正恵 (1998) 「「思う」を中心とする接続形式について」『学術研究 国語・国文学編』46 (早稲田大学) 9-26頁.
- 青木勝彦 (1999) 「所謂「文と文とを繋ぐ接続詞」の構文章論的扱いについて」『埼玉大学紀要教育学部 (人文・社会科学Ⅱ)』48-1 25-33頁.
- 庵功雄 (1999) 「テキスト言語学の観点から見た談話・テキスト研究概観」『言語文化』36 (一橋大学) 3-19頁. 13-14頁「接続表現に関する研究」
- 石黒圭 (1999) 「逆接の基本的性格と表現価値」『国語学』198 129-114頁.
- 石黒圭 (1999) 「並立の予測—予測の読みの一側面—」『国語学研究と資料』23 (早稲田大学) 13-24頁.
- 梅澤実 (1999) 「「ていうか」の使用心理から探る中学生の友人関係」『日本語学』18-14 79-83頁.
- 岡本宜子 (1999) 「国語辞典の品詞表示における接続詞認定 (1)」『日本語・日本文化研究』6 (京都外国語大学) 60-71頁.
- 沖裕子 (1999) 「若い人が使う「ていうか」はどんな言葉ですか。(【特集】手のひらの言語学 質問21)」『言語』28-5 80-83頁. 沖2006

- 亀山恵 (1999) 「3 談話分析：整合性と結束性」『岩波講座 言語の科学 7 談話と文脈』(岩波書店) 93-121頁. 連絡関係
- 川木冴子 (1999) 「「そういえば」による文の接続」『東海大学紀要 留学生教育センター』19 17-26頁.
- 木戸光子 (1999) 「接続表現と列挙の文章構造の関係(1)」『文藝言語研究 言語篇』36 (筑波大学) 69-87頁. 日本語教育
- 熊崎みどり (1999) 「「だから」と「それで」の機能について—話者の主観性との関連—」齋藤孝滋編『地域言語調査研究法』(おうふう) 98-108頁.
- クワンチャイ・セークー (1999) 「会話における接続詞の「でも」について」『東京外国語大学日本研究教育年報』3 21-42頁.
- 甲田直美 (1999) 「関係表現の系譜」『滋賀大学教育学部紀要Ⅱ 人文科学・社会科学』48 143-155頁. 甲田2001
- 坂田光美 (1999) 「「ない」文の用法について—接続語「しかし」に関わる連文からの一考察—」『安田女子大学大学院文学研究科紀要日本語日本文学専攻』4 23-37頁.
- 佐々木泰子 (1999) 「〈くまとまり〉の進化—作文能力に関する経時的調査—」『お茶の水女子大学人文科学紀要』52 71-81頁. 国語教育・言語発達、小学生作文の接続詞・指示語
- 清水佳子 (1999) 「主題の連鎖と接続詞との関連」『大阪大学日本学報』18 45-57頁.
- 高木真司 (1999) 「自由談話における話題と接続表現」『文芸研究』148 (日本文芸研究会) 86-73頁.
- 辻大介 (1999) 「若者語と対人関係—大学生調査の結果から—」『東京大学社会情報研究所紀要』57 17-42頁. 「っていうか」
- 辻大介 (1999) 「若者のコミュニケーションの変容と新しいメディア」橋元良明・船津衛編『シリーズ・情報環境と社会心理 3 子ども・青少年とコミュニケーション』(北樹出版) 11-27頁. 「っていうか」使用と若者の対人関係意識
- 仁科浩美 (1999) 「工学系論文における逆接続表現の用法」『山形大学日本語教育論集』2 99-108頁. 日本語教育
- 納富健司 (1999) 「接続詞に相当する語句「ってゆうか」についての考察(卒業論文要旨)」『九大言語学研究室報告』20 73頁. 「っていうか」
- 馬場俊臣 (1999) 「接続詞の二重使用について(一)」『国語国文学科研究論文集』44 (北海道教育大学札幌校) 1-3頁.
- 馬場俊臣 (1999) 「接続表現の省略可能性について」『札幌国語研究』4 (北海道教育大学) 69-74頁. 馬場2006
- 馬場俊臣 (1999) 「複合接続詞の体系的考察の試み—動詞の条件表現形式による複合接続詞を対象として—」『語学文学』37 (北海道教育大学) 19-29頁. 馬場2006
- 堀井謙一・松崎史周・河崎直茂・児平美和 (1999) 「接続詞の指導における留意点について 言語指導と論理把握指導の違いを区別する」『信州大学教育学部紀要』

- 松本晶行(1999)「実感の手話文法論・試論(V)」『日本手話研究所所報(手話コミュニケーション研究)』32(日本手話研究所)4-20頁. 第11章接続詞
- 森岡健二(1999)『欧文訓読の研究—欧文脈の形成—(明治書院). 246-269頁・直訳における比較的固定した接続詞、「そして」「また」「または」「何となれば」「のみならず」等
- 守屋三千代(1999)「そして・それから(第15課)」『日本語教科書のおとし穴』(アルク)124-131, 220頁. 日本語教育
- 横田将生・岡出高德・弘中大介・天野幹郎・笠見一(1999)「談話合成のための接続語の意味分析および記述」『電子情報通信学会技術研究報告 T L 思考と言語』99(電子情報通信学会)11-16頁.
- 林淑璋(1999)「会話分析と談話標識 「で」「だから」を手がかりに」『言語情報科学研究』4(東京大学言語情報科学研究会)335-358頁.